

授業 科目名	【G】	実務における情報通信技術	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2	
	【H】	実務における情報通信技術			【H】3		【H】2	
	【I】	実務における情報通信技術	その他参照		【I】3		【I】2	
科目区分	基本科目:【G・H・I】教科及び教科の指導法に関する科目(-----情報)							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための(-----情報必修)科目 【H】 教員の免許状取得のための(-----情報必修)科目 【I】 教員の免許状取得のための(-----情報必修)科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項: 「情報と職業」(高一種免情報)							
サブ タイトル	現場の課題を解決するICT活用				担当者	見崎 浩一		
授業概要	【概要】	<p>【概要】 情報通信技術(ICT)は単なる業務効率化の道具を超え、社会課題等を解決し、社会やビジネス現場を根本から変革し、新たな価値を生むための革新的な要素となっています。本授業では、情報通信技術の基礎概念から始まり、デジタルトランスフォーメーション(DX)の基礎から物流・製造・小売業界での具体的な活用事例までを体系的に取り上げます。「どのような課題に対し、情報通信技術をどのように使い、どう解決するか」のケーススタディを通じて多角的に学びます。</p> <p>【実務経験を活かした授業】 新聞社で行政から民間企業までさまざまな取材経験がある教員が、実践的な情報通信技術(ICT)の活用例を学生たちと考えます。学生はビジネス現場等での情報通信技術の活用方法を具体的に理解し、将来のビジネスシーンでの活躍に向けた準備を行います。</p>						
	【到達目標】	<p>① ICT、DX、AIの相関関係を理解し、現代ビジネス(実務)におけるテクノロジーの役割を説明できる。 ② 物流・製造・小売業界における具体的なICT導入事例を通じ、企業の課題解決プロセスを考察できる。 ③ 複数の企業事例を比較し、戦略の違いや共通点を自分なりの言葉で論理的に説明できる。 ④ 生成AIなどのデジタルツールを活用し、公的資料や企業データを効率的かつ深く分析するスキルを習得することができる。</p>						
履修条件	「コンピュータ各論」の単位を修得済みであること。							
アクティブ ラーニング の方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【○】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	○ (やや当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	特にありません。							
教科書	授業中に、適宜、資料を配布します。 また、必要に応じてプリントを配布します。							
参考書	野村総合研究所 IT基盤技術戦略室/NRIセキュアテクノロジーズ(2025年)『ITロードマップ 2025年版』東洋経済新報社 亀田重幸/進藤圭著(2024年)『いちばんやさしいDXの教本 改訂2版 人気講師が教えるビジネスを変革するAI時代のIT戦略』(インプレスブック)							
評価方法	授業ごとの演習成果物や課題等を点数化して、加算方式で評価します。 各授業の振り返りと学習の成果物(30%)、授業演習課題(40%)、アクティブラーニングへの参加姿勢等(30%)							
フィードバック 方法	Google Classroomを使用し、提出された課題についてのコメント等のフィードバックをします。							
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」とする。単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 なお、試験欠席など、評価不能の場合には「F」とする。							

授 業 科目名	【G】 実務における情報通信技術	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】 実務における情報通信技術			【H】3		【H】2
	【I】 実務における情報通信技術	その他参照		【I】3		【I】2
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、イントロダクション: 社会基盤としての情報通信技術 予習: シラバスを通読し、ニュース等でICTに関する話題を探る(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
2	デジタル化からDXへ: 定義と変革の段階 予習: 身の回りでデジタル化によって便利になった仕組みをリストアップ(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
3	ICT・DX・AI: 加速するビジネスへの融合 予習: 生成AIを実際に触り、どのような回答か検証する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
4	企業評価の視点: DX銘柄 予習: 「DX銘柄」について調べる(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
5	情報収集・AI分析演習①: NotebookLM導入と活用 予習: Googleアカウントを準備し、ツール解説動画を視聴する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
6	情報収集・AI分析演習②: 情報通信白書を読み解く 予習: 情報通信白書の概略を通読する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
7	情報収集・AI分析演習③: 情報通信白書分析のミニプレゼン 予習: 発表用に、前回分析した内容を箇条書きにまとめる(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
8	ケーススタディ①物流業: 業界概要、ICT/DXの取り組み分析 予習: 「物流の2024年問題」について調べる(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
9	ケーススタディ①物流先進企業: 企業概要、ICT/ DXの取り組み分析 予習: 当該企業の公式サイトを見て、ICTやDX欄を通読する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
10	ケーススタディ①製造業: 業界概要、ICT/DXの取り組み分析 予習: 「スマートファクトリー」という用語を調べ、まとめる(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
11	ケーススタディ①製造先進企業: 企業概要、ICT/ DXの取り組み分析 予習: 当該企業の公式サイトを見て、ICTやDX欄を通読する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
12	ケーススタディ①小売業: 業界概要、ICT/DXの取り組み分析 予習: コンビニやスーパーでの「デジタル技術」をメモする(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
13	ケーススタディ①小売先進企業: 企業概要、ICT/ DXの取り組み分析 予習: 当該企業の公式サイトを見て、ICTやDX欄を通読する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
14	ケーススタディ①小売先進企業、3社のICT/DX戦略比較分析 予習: コンビニ2社の公式サイトを見て特徴を探る(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
15	総括と未来予測: 情報社会を生き抜くために 予習: 最終プレゼン資料を完成させ、発表練習をする(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
その他	復習: 授業時の演習ないし課題をGoogleフォーム等で回答・提出する。この授業ではGoogleClassroomやGoogleフォーム等を活用します。課題や演習等の提出物はスマートフォンではなく、パソコン活用を強く推奨します。 ※G・H・I 加: 法【選択】スポ【選択】情【選択必修(E)】					